

令和6（2024）年度 栃木県浙江省友好交流員レポート（1月分）

栃木県浙江省友好交流員 牧野 想

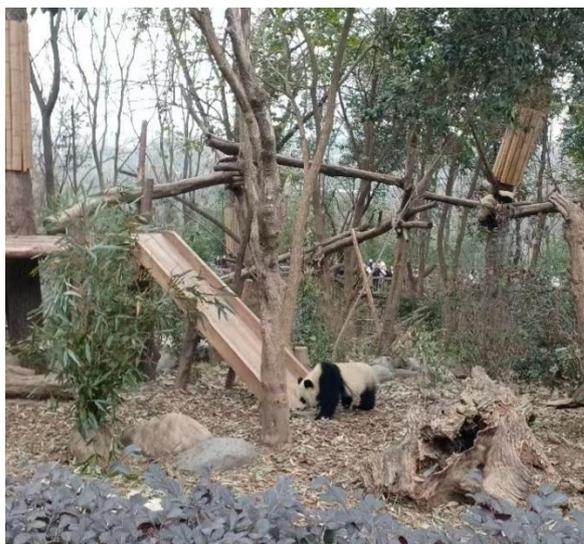
1. 期末試験

年末休暇は12月28日から1月1日までと、日本の正月休みよりも短かったため、1月2日から4日にかけて期末試験が実施されました。精読や閲読の期末試験は、校内の別教室で行われ、大学寮から約20分歩いて向かいました。試験内容は中間試験より範囲が広く、難易度も高かったため、早めに対策を始めました。試験直前はカフェで友人と集中して勉強し、その甲斐もあって、選択科目を含め全教科で良い成績を収めることができました。

2. 成都・重慶旅行

1月16日から20日に、日本人留学生の友人と成都・重慶に行きました。有名な観光地を巡ったり、激辛料理を試してみたり、非常に充実した4泊5日となりました。

四川省の省都である成都是、「パンダの故郷」として知られています。私達も大熊猫繁育研究基地に行き、ジャイアントパンダやレッサーパンダを見てきました。また、三国志の名将である諸葛亮（孔明）関連スポットとして有名な「武侯祠」も訪れました。ここは中国で唯一、君主と臣下を同じ場所で祀る建築物として知られており、三国志ファン必見のスポットです。市内中心部からアクセスが良く、多くの観光客が訪れていました。



中国直轄市の一つで内陸部に位置する重慶は、「山城」の愛称を持ち、山や川に囲まれた立体的な都市景観が魅力的です。夜景が美しい人気の観光スポット「洪崖洞」や「李子坝站」などを訪れました。「李子坝站」はモノレールの駅なのですが、駅がマンションの6階から8階部分を貫通して設置されており、建物と一体化しています。モノレールがマンションを通過する瞬間は迫力があり、撮影スポットとしても有名です。重慶では、スカイウォークも体験しました。



3. アリババ本拠地「阿里巴巴西溪园区」見学

アリババは中国浙江省杭州市に本拠地を置く世界的な IT 企業で、1999 年に設立されました。中国の「キャッシュレス化」の先駆者として、日本でも注目を集めています。「淘宝（タオバオ）」や「天猫（Tmall）」などのオンラインサイト運営や、クラウドサービス展開など、多岐にわたる事業を行っています。

「阿里巴巴西溪园区」は杭州を象徴する存在で、都市の近代化や経済発展を支える役割を担っています。また、アリババは企業文化として「創造性」と「柔軟性」を重視しており、働きやすい職場環境が特徴です。見学当日、担当者の方がアリババの歴史やサービス展開などについて詳しく説明してくださり、非常に学びの多い時間となりました。



4. まとめ

今回のレポートが、栃木県浙江省友好交流員としての最後のレポートとなります。この半年間を振り返ると、学業では中国語のスキルを磨くと同時に、現地の学生たちと交流することで、異文化への理解が深まりました。

特に浙江大学日本語学科の学生たちとの交流では、互いの言語や文化を学び合う機会に恵まれ、大きな刺激を受けました。また、大学のダンスイベントに参加し、言葉の壁を越えて仲間と共に目標を達成する喜びを経験しました。

このような経験を通じて視野が広がるとともに、多くの新しい気づきを得られました。この貴重な経験を、これからの活動や人生に活かしていきたいと思います。